

議事録

1 概要

議題・会議名	令和6年度 第2回 学校運営協議会 令和6年度 防災教育推進のための連絡会議
開催日時	令和6年9月6日（金）午前9時15分から11時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員6名 防災教育推進関係者5名 本校教職員11名 計22名
目的	・学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 ・開かれた学校づくりを進め、地域と連携した防災教育の展開や学校の防災体制の整備等について協議するため、学校・自主防災組織・市町防災担当課等で構成される「防災教育推進のための連絡会議」を定期的に開催し、関係者の顔合わせだけでなく、地域の人材や教材を積極的に掘り起こし、地域に根差した防災教育を行うものとする。
テーマ	「地域とともにかがやき発信（貢献）する清水特別支援学校を創ろう」 ～本校の防災教育、防災体制について～

2 議事

9時15分 令和6年度第2回学校運営協議会 並びに 防災教育推進のための連絡会議 開会

- ・外部委員6名、防災教育推進関係者4名（1名は校内参観から参加）、本校教職員11名、計21名で開会した。

①校長挨拶

- ・校長より、挨拶が行われた。

②自己紹介（委員、防災教育推進関係者、本校教職員）

9時25分～9時40分 令和6年度防災教育推進のための連絡会議

- ・本校の防災教育、職員研修、安全計画書、危機管理マニュアルの説明

9時40分～10時15分 校内参観

（管理棟3階→防災倉庫→マンホールトイレ→体育館→義務教育棟）

- ・防災物品の確認、防災倉庫、避難所設置場所の確認
- ・義務教育棟設置の防災対策グッズ、垂直式シューターの確認

10 時 20 分～11 時 5 分 グループワーク ～本校の防災教育、防災体制について～

- 話題 (1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて (校内参観の感想等)
- (2) 地域の学習資源を活用した防災教育について
- (3) 地域との連携について
- (学校と地域が連携した防災訓練や児童生徒の地域への貢献について)

1 班 A 委員、I 様、副校長、地域連携課長

(1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて

- ・防災用品や備蓄品が充実している。飯田東小は、一人当たり 1 日分の備蓄があり、防災についての学習後に、家庭で 3 日分を準備している。PTA で 3 日分の購入を検討したが、予算がなく実施されなかった。学区が狭いので、保護者に引き渡すことが前提であるため備蓄は少ない。引き渡しは徒歩で来てもらう。地域の避難所は飯田小がメインであるため、マンホールトイレや避難者受け入れの準備はない。
- ・防災マニュアルの職員共有の仕方を参考にしたい。(年度当初の周知、職員へのマニュアルの配付)
- ・避難所となった際に、一般避難者と福祉避難者について区分けが必要となるが、線引きをして地域住民に明示することが大事である。
- ・周辺道路が狭く、混雑が予想される。地域住民ではなく、国道 1 号線から車が流れ込んでくるのではないかな。

(2) 地域の学習資源を活用した防災教育について

- ・12 月の地域防災訓練に参加し、地域の方と一緒に活動することで、地域の方に児童生徒について認知してもらえるのではないかな。段ボールベッドや簡易トイレの組み立て、防災食の調理など、地域の人と一緒に体験することができる貴重な場である。学校からも、より積極的な参加の呼び掛けを行いたい。地区では、中学生の参加がメインで、兄弟関係で小学生も参加している。参加については保護者の考え方にもよる。
- ・飯田東小では、総合的な学習の時間に「飯田学」として防災学習を始めた。学年ごとに学ぶ内容が決まっており、小中 6 年間で学ぶ。取り組み始めたばかりなので、まずは専門家をゲストティーチャーに招き、身の守り方について知識を得ることから始めている。今後、地域の方を招いた学習を行い、地域について考え、自分事として課題に取り組めるようにしたいと考えている。地域密着型の学びの中で、自分の命を守ることと、地域の役に立つことについて学んでいきたい。
- ・中島小・中学校は、防災のセンター的取り組みを行っており、地域との連携が進んでいる。取り組みの参考になる。
- ・運営協議会に地区自治会の方を加えてはどうか。今回参加の自主防災会長 (H 様) が適任ではないかな。

(3) 地域との連携について

- ・地区の中で、清水特別支援学校だけは飯田小・中と離れた場所にあるが、開校から 15 年経ち地域の中での認知が進んできた。飯田まつり等、地域のイベントに参加することで、より多くの方に本校の存在を認知してもらうことが大切である。
- ・H24 に、市障害者協会主催で「災害時要援護者の防災を考える宿泊型防災訓練」を本校で行った。参加者にとって、障害のある方の特性の理解や避難時の配慮の必要性を感じる貴重な機会となった。地域の方と一緒に行う訓練の価値や必要性を感じる。
- ・福祉と防災について、社会福祉協議会でもこれから考えていかねばならないと感じる。
- ・地震だけでなく台風被害についても一緒に考えていく必要がある。
- ・飯田東小の年 3 回の避難訓練では、避難経路を覚える (4 月)、地震・火事、行方不明の児童の搜索訓練 (9 月) と行っているが、高学年になると慣れから緊張感が薄れことが課題となっている。

2班 B委員、F委員、G様、K様、小主事、生活安全課長

(1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて

- ・発災時にスムーズに動ける避難器具の配置であるか、垂直式シューターが設置されているが、より安全で使いやすいもの、他校や施設を参考にするとよいのではないか。階段の幅の狭さ、非常階段がないことが気かりである。→避難訓練での避難経路の確認、消防点検での器具の確認はできている。階段幅については、防火扉との兼ね合いもある、非常階段については両端に階段のある本校はなくてもよい作りになっている。
- ・避難に困難を要する実態の児童生徒を想定して準備をしてほしいと思う。
- ・想定を超える災害が起こった時についても考えたい。
- ・地盤については、元々「新田」と呼ばれていた土地なので、地盤は緩いかもしれない、学校の北と西側が液状化する可能性がある。
- ・マンホールトイレ設置場所が、職員の駐車場所となっている。他の土地に駐車場を確保できないか。(駐車場の確保や代金が教員の負担にならないように働きかけたい)
- ・交流館に、市から蓄電池や備蓄の要請があるが、そのための倉庫がなく管理の場所や業務がこちら任せとなっている。
- ・交流館では、紐式のはしごが設置されていて、使用が難しそうである。→避難器具についての避難のしやすさは①滑り台②斜め式のシューター③垂直式のシューター④固定式のはしご⑤紐式のはしごとなる。利用する人によって避難器具を決めるのが望ましい。

(2) 地域の学習資源を活用した防災教育について

- ・西豊田小学区では、地域の人を交えた防災訓練を行っている。初めは県立大学の先生も入っていた。取り組み始めは、地域に住んでいる障害のある方の特性や高齢者のことを知ってもらい、次第に一緒に訓練に取り組んでいった。施設入所の高齢者も参加している。学生の参加も増えている。本校でも12月の防災訓練で取り組んでみてはどうか。西豊田地区に話を聞きに行ってはどうか。
- ・コロナ禍前は、高等部が防災宿泊訓練を行っていた。
- ・交流館は施設が狭いので、学校で地域の方を交えながら訓練等をやってもらえるとありがたい。
- ・地域でHUG訓練を行いたいという話が出ているので、先生方も参加してほしい。→職員が地域でHUG訓練に参加することは効果的だと考える。

(3) 地域との連携について

- ・飯田地区の連合自主防災組織の活動を今年、見直し始めている。
- ・清水東高校や飯田東小学校、そして本校と、地域との防災訓練を行えるとよい。
- ・秋葉山公園が防災公園であるため、水を汲んでくる等の訓練が考えられる。避難者の人数の想定や水の埋蔵量などを確認しておくとうい。
- ・地域へ清水特別支援学校が「福祉避難所であること」、「児童生徒分の備蓄しかないこと」を周知した方がよい。避難が必要になったときに、一般の避難所の方と福祉避難所の方とで軋轢が生まれないような準備、特性に応じた配慮が必要なことへの理解も広げたい。
- ・地域の防災担当の方に防災訓練等に参加してもらうところから始め、理解を深めていく。

3班 D委員、H様、事務長、校長、中主事、進路課長

(1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて

- ・防災管理に万全はない。発災時にはできる対応をしなくてはならない。起こりうる限りを想定し、関わる人が意識をして準備をする必要がある。
- ・学校備蓄の水について →1512リットル(400人、7日分(5年保存水))

- ・発災時には、地区外の人でも避難してくることを想定すると、本当に支援が必要な人に安心できる場所となっているか疑問である。
- ・清水特別支援学校は避難所となっているが、場所の提供のみで、運営は自治体が行う。基本的には、自宅が安全であれば、自宅にいてもらう。
- ・入江周辺はかつて城があり、お堀があった。地盤として弱い。一方で、大手町周辺は岩盤で強い。現在の建物は考慮して建てられているものがある。

(2) 地域の学習資源を活用した防災教育について (3) 地域との連携について

- ・飯田地区には6か所避難所がある。備蓄は自治体ごとに準備する。静岡市の防災倉庫があるが十分ではない。6か所の運営をどのようにしていくのかは検討中。避難してきた人を避難所でどのように振り分けるのか、地区外の人はどうするのかなど課題は多い。現状、発災後に行く避難所が決まっていない。(各家庭が行く場所)
- ・秋葉山では地域のために開放してはどうかと静岡市に提案している。
- ・何が安全かを学校・地域が話し合いを続けることが大切なのではないか。地域で暮らす中で、発災時に自分自身がどうしたらよいのかを家庭を含めて考える必要がある。人任せにしないということを学びたい。
- ・地域と学校で訓練をしてみてもどうか。やり方は検討が必要で、何を学ぶか、活動内容、目的は考えなくてはならない。そのためにも、普段から地域とのコミュニケーションを取っておくことよい。学校は職員の異動があるが、交流をする土壌を作っておき、引き継げるようにする。
- ・11月の清水特支総合防災訓練時に地域が入ってはどうか。秋葉山では八坂幼稚園やデイサービスと一緒に訓練を行ったことがある。
- ・山原地区では、訓練内容で火を起こす体験を取り入れてコーンスープを作ったり、毛布で担架を作ったりした。山原地区も秋葉山寺も、鍋や釜の用意をしている。
- ・地区で訓練を行っているが、小学生の参加が減少している。中学生は学校で参加をするように言われているため出席する。防災訓練を通して、大人が何をやっているのかを見てほしいし、学んでもらいたい。

4班 C委員、E委員、J様、教頭、高主事、教務課長

(1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて

- ・学校周辺の液状化は心配だが、校内備蓄の物資は充実していてよい。
- ・環境に恵まれている学校だが、外部の方も避難してきた際に、職員の負担が大きいのではないかと。
- ・校内設置のトランシーバーは、鉄筋の建物内でも機能しているか。また、拡声器は多方向に声が届かないので、ベルトがスピーカーのマイクセットが、いざと言う時に有効である。
- ・清水特支の1週間分の防災食備蓄を見て、飯田中は450人規模で、PTAで3日分の水、パン、ビスケットの用意、加えて一人一箱の防災食(1日分程度)のため検討したいと感じた。市の備蓄の毛布と発電機はあるが、学校独自での備蓄も考えたい。
- ・発電機は、燃料となるガソリンの備蓄量の検討、月に1回程度試運転する必要についても考えた方がよい。→現在、1～2か月に一度試運転している。
- ・校内のトランシーバーの使用状況はについて(飯田中では、不明生徒の搜索は、防犯カメラの映像を利用している)→発作等の不調時の応援要請、放課後等デイサービスの迎いの連絡、近隣の校外活動時の連絡等で使用している。

(2) 地域の学習資源を活用した防災教育について

- ・飯田小中で行う「飯田学」は、3年目の取り組みとなるが、成果を見せ始めている。
 　　<飯田中の取り組み>
 　　飯田17地区のうち、14地区に生徒が居住している。

6月に、有事の際に中学生も地域の一人として役立つ存在であることを学ぶ。

登下校を利用してフィールドワークを行い、危険箇所を把握し、まとめる。

12月第1週の「地域防災の日」に、各地域に参加する。地域、または小学5，6年生に向けて、隔年で防災についての学びを10分程度発表する機会を持っている。（今年12月は地区に発表する。）

～「飯田学」を始めた背景～

地域からの「中学生が（防災訓練等に）出てこない。」という声がきっかけである。

「飯田学」に取り組み始めると、2年前の水害時には7割強の生徒が地域の片付けに参加をし、市のボランティアにエントリーする生徒も出ている。

生徒が防災のこと、地域のことを知ることが目的ではあるが、将来、飯田の地区に戻ってきたい、という地元愛を育みたい。

3.11では中学生が活躍する姿が多く見られたが、飯田地区でもそのような中学生を育てていきたい。

- ・市（小中学校）と県（特別支援学校）が一緒に防災のことを考え、繋がっていることが良い。地域との日常の繋がりが、有事の際の繋がりになる。特別支援学校の場合は、子ども達が繋がる前に、大人同士の繋がりが大事になる。地域だけでなく、お金や避難場所の提供等で頼ることができるので、企業とも常時から繋がっておくとよい。企業は、地域の方と交流できる場（まつり、工場の開放等）の取り組みを行っている。
- ・日軽金オーリスの避難訓練では、高台に位置していることからヘリポートの機能や高台避難の場所となるため、自分の避難だけでなく、避難者を誘導する訓練、初期消火や救命講習なども行っている。HUG訓練も行ったことがある。
- ・「ふじのくに防災学講座」を受けた飯田中の1，2年生は、地域でAED講習の講師をする等の動きもある。地域の方に、「飯田学」の取り組みへの理解が進み、12月の地域防災の企画を中学生が行う等の話も上がってきている。
- ・蒲原中の避難訓練では、津波への対応として「垂直避難」と「高台避難」で悩んだ。隣接するこども園の幼児と一緒に避難という試みも行った。これらについては、地震の専門家に判断を仰ぎ、「垂直避難」という結論に至った。

(3) 地域との連携について

- ・児童生徒、特に高等部生徒は、いざと言う時の戦力になる。→学校では、マンホールトイレの設置、避難所の仕切りの設置等の体験をしている。
- ・「飯田学」の1年目の地域防災の日は、地域の訓練に参加するように促すだけであったが、2年目からは「登校日」とし、各地域に教員が出向いている。
- ・中島小中学区では、地域防災の取り組みが活発に行われており、それぞれの地域で中学生にも役割分担がある。地域のタイプにもよるが、飯田地区も「隣のおじいちゃん」と関わりのあるコミュニティーであるので、助け合える地域だと思う。

11時5分 共有（報告：各分掌課長）

- ・4グループからの報告

11時15分 事務連絡

11時16分 閉会

【次回の予定】

予定日時	令和6年11月15日（金）午前9時15分から11時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室

<グループワークのまとめ>

(1) 本校の学校安全計画、危機管理マニュアルについて（校内参観の感想等）

- ・防災用品、備蓄品が充実していて良い。
- ・想定を超える災害、避難に困難さを抱える児童生徒の避難を想定して準備をしたい。（起こりうる限りを想定した準備が必要）
- ・備蓄品の試運転等、管理状況についても意識したい。
- ・危機管理マニュアルの職員への共有方法を工夫したい。
- ・（器具や避難のこと等）判断に迷うことは、専門家に相談し、対応策を考える。

(2) 地域の学習資源を活用した防災教育について

- ・3年前にスタートしている「飯田学」（飯田小中での取り組み）は良い成果を見せ始めている。清水特支は学区が広く同様にはできないこともあるが、地域との取り組みについて検討してはどうか。
- ・「何が安全なのか」を学校と地域で話し合いを続けることが大切である。発災時にどのような行動をするのかを家庭も含めて考える必要がある。
- ・秋葉山公園が防災公園であるため、訓練に活用することができる。
- ・有事の際の児童生徒の役割について考えたい。（戦力になれること）
- ・12月の地域防災の日の児童生徒の参加について考えたい。（飯田学を参考に）

(3) 地域との連携について（学校と地域が連携した防災訓練や児童生徒の地域への貢献について）

- ・学校運営協議会メンバーに地区自治会（防災担当等）が入ってはどうか。
- ・西豊田地区の地域との防災訓練を参考に、高齢者施設等、地域と一緒に防災訓練を行ってはどうか。地域とコミュニケーションをとり、交流をする土壌を作ることが大事である。
- ・11月の総合防災訓練時、地域の方（施設や園、自治会の職員）に様子を見てもらう。
- ・今後も地域のイベント（飯田まつり等）に参加し、清水特支の存在の認知、特性や配慮への理解が大事である。
- ・地域と一緒に行う訓練には、価値や必要性がある。（以前の宿泊型防災訓練での学びから）
- ・清水東高校、飯田東小学校、地域と避難訓練を行えるとよいのではないかな。
- ・清水特支が「福祉避難所」であること、防災食は「児童生徒分」であることを地域に周知、理解してもらう必要がある。
- ・地域の防災担当の方に訓練に参加してもらい、徐々に理解を深めていく。
- ・普段の地域との繋がりを大事にし、交流する土壌づくりを行う。